



中嶋崇博
主任言語聴覚士



森山元大医師



渡辺淑子
副看護師長

やまなし
医療最前線
看護のいま
県立中央病院から

〈306〉

食べ物や唾液が食道ではなく気管に入ってしまうこ

山梨県立中央病院の
主な誤嚥性肺炎防止策

- 口腔環境を評価した上で清潔にする
- 各病棟に専門的な知識を学んだ看護師を配置
- 嚥下サポートチームが各病棟を回診し、病棟看護師に飲んだり食べたりすることが難しい患者への対応をアドバイスする

新評価表導入、相談強化も

誤嚥性肺炎防止策を推進

とで、口腔内の細菌が肺に入って炎症を起こす「誤嚥性肺炎」を患う高齢者が多発している。山梨県立中央病院は高齢化の進行を見据え、新たな評価表の導入や回診を通じた相談体制の強

化など、誤嚥性肺炎を未然に防ぐ取り組みを進めている。

加齢に伴い、食べ物や飲み物をのみ込んで口から胃へ送り込む動作「嚥下」の機能が低下する場合がある。湿剤を使う「粘膜ケア」な

り、嚥下サポートチームを結成。週1回各病棟を回診し、病棟看護師に嚥下が難しい患者への対応（食べ物や飲み方など）をアドバイスしている。

毎月30件以上の相談に応じている。患者ごとにきめ細かな対応が求められ、相談のニーズは高いという。

る。病院は2023年6月から「誤嚥性肺炎ゼロキャンペーン」を掲げ、入院患者の嚥下の状態を判断する評価表を導入した。水やとろみをつけた水を飲んでもらい、「むせた」「のみ込めない」などの症状に応じて摂食嚥下障害の程度を判断している。

より複雑な症例に対応するため、摂食・嚥下障害看護認定看護師の渡辺淑子さん、耳鼻咽喉科医師の森山元大さん、主任言語聴覚士の中嶋崇博さんが中心とな

は、口腔内を清潔に保つこ

る。病院は2023年6月

から「誤嚥性肺炎ゼロ